

# SinBackup

## 同期式ファイルバックアップソフトウェア

Version 2.2.1

はじめにお読みください



- 目 次 -

|     |                           |    |
|-----|---------------------------|----|
| 1.  | 概要 .....                  | 3  |
| 2.  | 仕様 .....                  | 3  |
| 2.1 | 動作環境 .....                | 3  |
| 2.2 | ソフトウェアバージョン .....         | 3  |
| 3.  | 動作原理 .....                | 4  |
| 3.1 | バックアップ構成 .....            | 5  |
| 3.2 | 増分バックアップ処理 .....          | 6  |
| 3.3 | 差分バックアップ処理 .....          | 7  |
| 3.4 | トランザクション形ファイル同期処理 .....   | 8  |
| 3.5 | レジューム機能 .....             | 9  |
| 4.  | 設定内容の詳細 .....             | 10 |
| 4.1 | 設定ファイルの互換性 .....          | 10 |
| 4.2 | Software セクション .....      | 10 |
| 4.3 | System セクション .....        | 12 |
| 4.4 | Core_System セクション .....   | 18 |
| 4.5 | Log_Format セクション .....    | 19 |
| 4.6 | Batch_Process セクション ..... | 23 |
| 5.  | ファイルやドライブのアクセス権 .....     | 27 |
| 6.  | その他注意事項 .....             | 30 |
| 7.  | 免責事項 .....                | 30 |
| 8.  | 謝意 .....                  | 30 |
| 9.  | お問い合わせ先 .....             | 30 |

## SinBackup (同期式ファイルバックアップソフトウェア) はじめにお読みください

Version 2.2.1, Release 2014/11/15

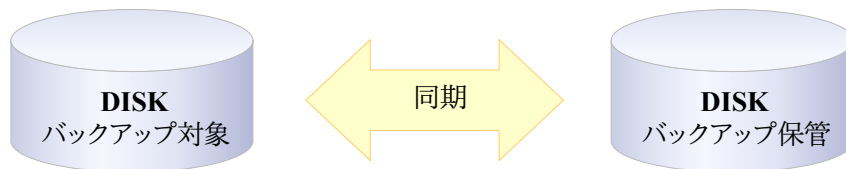
### 1. 概要

このバックアップソフトウェアは、増分と差分処理を同時に行うことにより常にバックアップ対象のデータとバックアップ保管のデータとの間で同期が取られます。

例えば、フォルダやファイル名を変更したり、フォルダやファイルを移動したり、ファイルの削除や更新をしたりといった行為が成された場合、両者の間ではファイル名やフォルダ構成に矛盾が発生しています。しかし、本ソフトウェアを用いることでこれらの矛盾は解消され、常に両者のデータは最新の状態が保たれます。

本同期処理は、更新されたファイルやフォルダを検出して読み書きを行いますので、必要最小限のオーバーヘッドで同期が取られます。また、メイン処理は再帰制御を行っておりシンプルなアルゴリズムですので、比較的動作は速いのではないかと思います。

CUI ベース(コマンドプロンプト)でフル制御が可能ですので、GUI を必要としない遠隔操作などで活躍できるのではないかと思います。



### 2. 仕様

#### 2.1 動作環境

以下に本ソフトウェアの動作上必要な要件を示します。

|         |   |
|---------|---|
| スクリプト言語 | VBScript 5.0 以上が OS にインストールされ実行可能な環境 ※  |
| OS      | ・PC/AT 互換機 (DOS/V, PC-98NX)<br>Microsoft Windows 95/98/Me/NT4.0/2000/XP/2003/Vista/2008/7 日本語版<br>・PC-9821 シリーズ<br>Microsoft Windows 95/98/NT4.0/2000 |
| 動作パソコン  | ・PC/AT 互換機 (DOS/V, PC-98NX)<br>・PC-9821 シリーズ  |
| スペック    | OS が要求する推奨値以上のメモリ及び CPU を搭載したマシン  |

※ Internet Explorer や Internet Information Services(ASP)自体は動作上必要としません。

#### 2.2 ソフトウェアバージョン

本マニュアルで対応しているソフトウェアのバージョンを示します。

| 属性                              | 対応バージョン | 説明  |
|---------------------------------|---------|---|
| プログラムバージョン<br>(Program Version) | 2.2.1   | <a href="#">sinbackup.vbs</a> (実行ファイル) のバージョンを表します。 |
| フォームバージョン<br>(Form Version)     | 1.1.3   | <a href="#">sinbackup.ini</a> (設定ファイル) のバージョンを表します。 |

### 3. 動作原理

- ① VBScript のロケール (動作環境) が日本であることを確認します。
- ② VBScript のエンジンのバージョンが5以上であることを確認します。
- ③ ファイルシステムオブジェクトのインスタンスを作成します。
- ④ ネイティブシステムオブジェクトのインスタンスを作成します。
- ⑤ 設定ファイル (**sinbackup.ini**) をロードします。
- ⑥ ステータスファイル (**sinstatus.ini**) をロードします。
- ⑦ 設定されている各セクションの内容に矛盾がないことを確認した後、設定されている内容が取り込まれます。

セクションには、以下の 5 種類があります。

| セクション         | 説明  |
|---------------|---|
| Software      | sinbackup.ini が本ソフトウェアの設定ファイルであることを識別する情報 |
| System        | 本ソフトウェアの動作に関する情報                          |
| Core_System   | 本ソフトウェアの動作が依存する VBScript に関する情報           |
| Log_Format    | ログ出力の動作に関する情報                             |
| Batch_Process | バックアップ処理の定義                               |

- ⑧ バックアップ対象のドライブ及びフォルダの有効性を確認します。
- ⑨ バックアップ保管のドライブの有効性を確認します。
- ⑩ ログ保管のドライブの有効性を確認します。
- ⑪ ログファイルインスタンスを作成すると同時にログを開始 (オープン) します。
- ⑫ バッチプロセスを開始します。
- ⑬ バックアップ処理方式を取得します。

バックアップ処理方式には、以下の 4 種類があります。

| 処理方式           | 説明                              |
|----------------|---------------------------------|
| Add_First      | 増分バックアップ処理後、差分バックアップ処理を行います     |
| Subtract_First | 差分バックアップ処理後、増分バックアップ処理を行います     |
| Realtime       | 増分と差分のバックアップ処理を効率的に切り替えながら処理します |
| Force          | 増分バックアップ処理のみを行います               |

- ⑭ バックアップ処理を開始します
- ⑮ バッチプロセスを終了します。
- ⑯ ログファイルをクローズ処理します。
- ⑰ ステータスファイルをクローズ処理します。
- ⑱ 完了

### 3.1 バックアップ構成

#### バックアップ構成



#### SinBackupディストリビューション

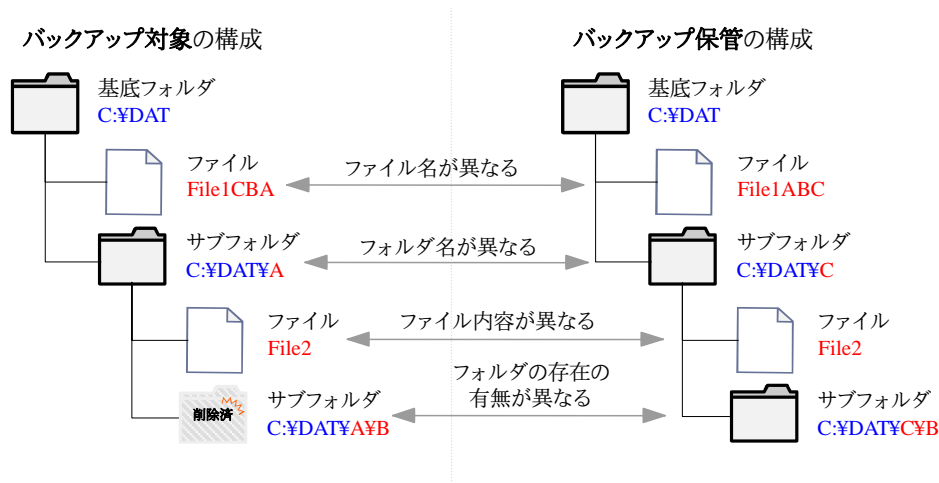


#### 用語説明

|           |                          |
|-----------|--------------------------|
| バックアップ対象  | バックアップを取りたいディスク領域        |
| バックアップ保管  | バックアップを取られた内容を保管するディスク領域 |
| ログ保管      | バックアップの処理内容を記録するファイル     |
| 設定ファイル    | バックアップの定義や動作設定を保存するファイル  |
| ステータスファイル | バックアップの動作状態を保存するファイル     |
| 実行ファイル    | バックアップを処理するスクリプトファイル     |

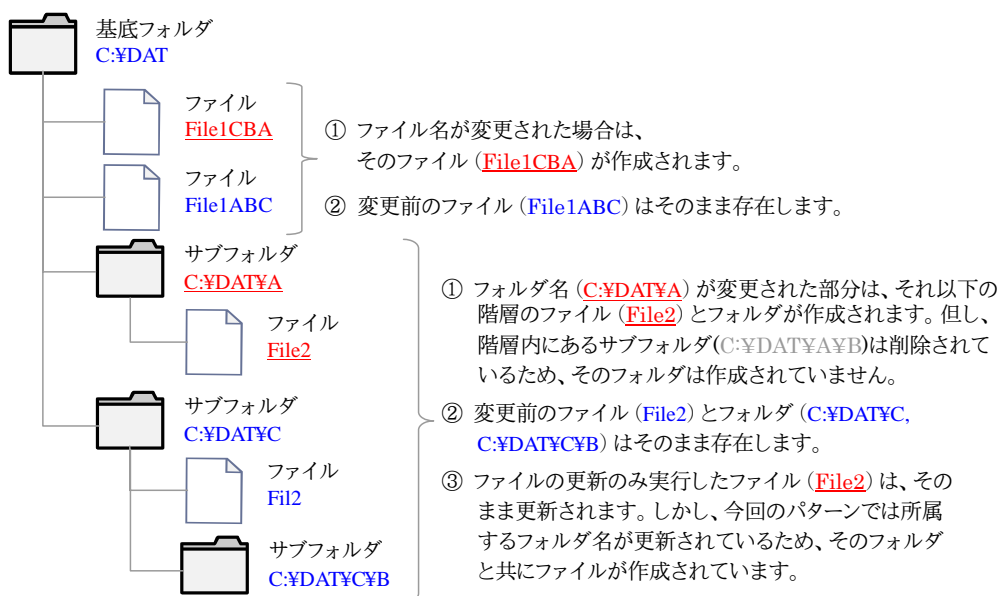
### 3.2 増分バックアップ処理

バックアップ対象とバックアップ保管との間で同期が取られ、同じ状態となって以降、バックアップ対象で更新作業（フォルダの移動、フォルダ名の変更、ファイル名の変更、ファイルの作成、ファイルの更新）を行った場合、バックアップ対象とバックアップ保管との間でファイルやフォルダに乖離が発生します。これを解消するのが増分バックアップ処理にあたります。



上の構成の場合、**赤色**で示す部分に乖離が発生しています。この状態で増分バックアップを行うことにより以下の様な構成となります。

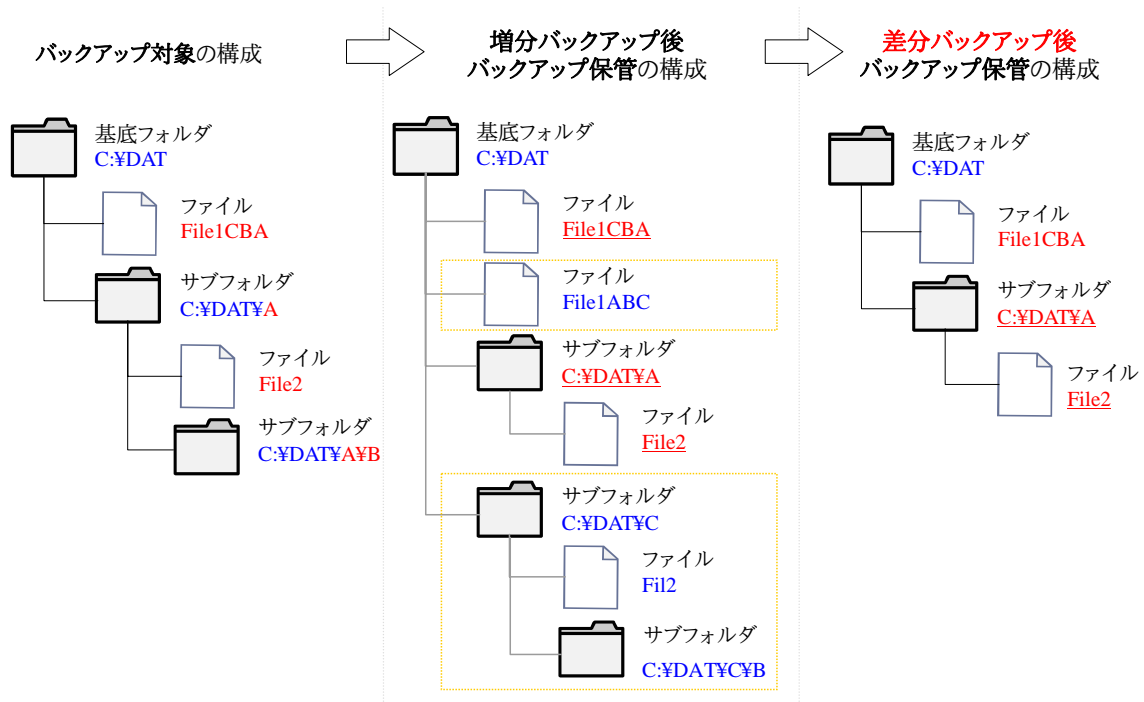
#### 増分バックアップ後バックアップ保管の構成



バックアップ対象とバックアップ保管との間で同期を取って以降、削除されたファイルやフォルダについては、増分バックアップでは処理できていません (**C:\DAT\A\B** に該当する部分)。これを処理する方法として、差分バックアップ処理が必要になります。

### 3.3 差分バックアップ処理

バックアップ対象とバックアップ保管との間で同期が取られ、同じ状態となって以降、バックアップ対象で更新作業（フォルダの移動、フォルダ名の変更、フォルダの削除、ファイル名の変更、ファイルの削除）を行った場合、バックアップ対象とバックアップ保管との間でファイルやフォルダに乖離が発生します。これを解消するのが差分バックアップ処理にあたります。



増分バックアップ後のバックアップ保管とバックアップ対象との間において、**橙色**の破線枠で示す部分に乖離が発生しています。この状態で差分バックアップを行うと、**橙色**の破線枠で示すファイルやフォルダは削除され、バックアップ対象とバックアップ保管との間で発生していた乖離が解消されます。



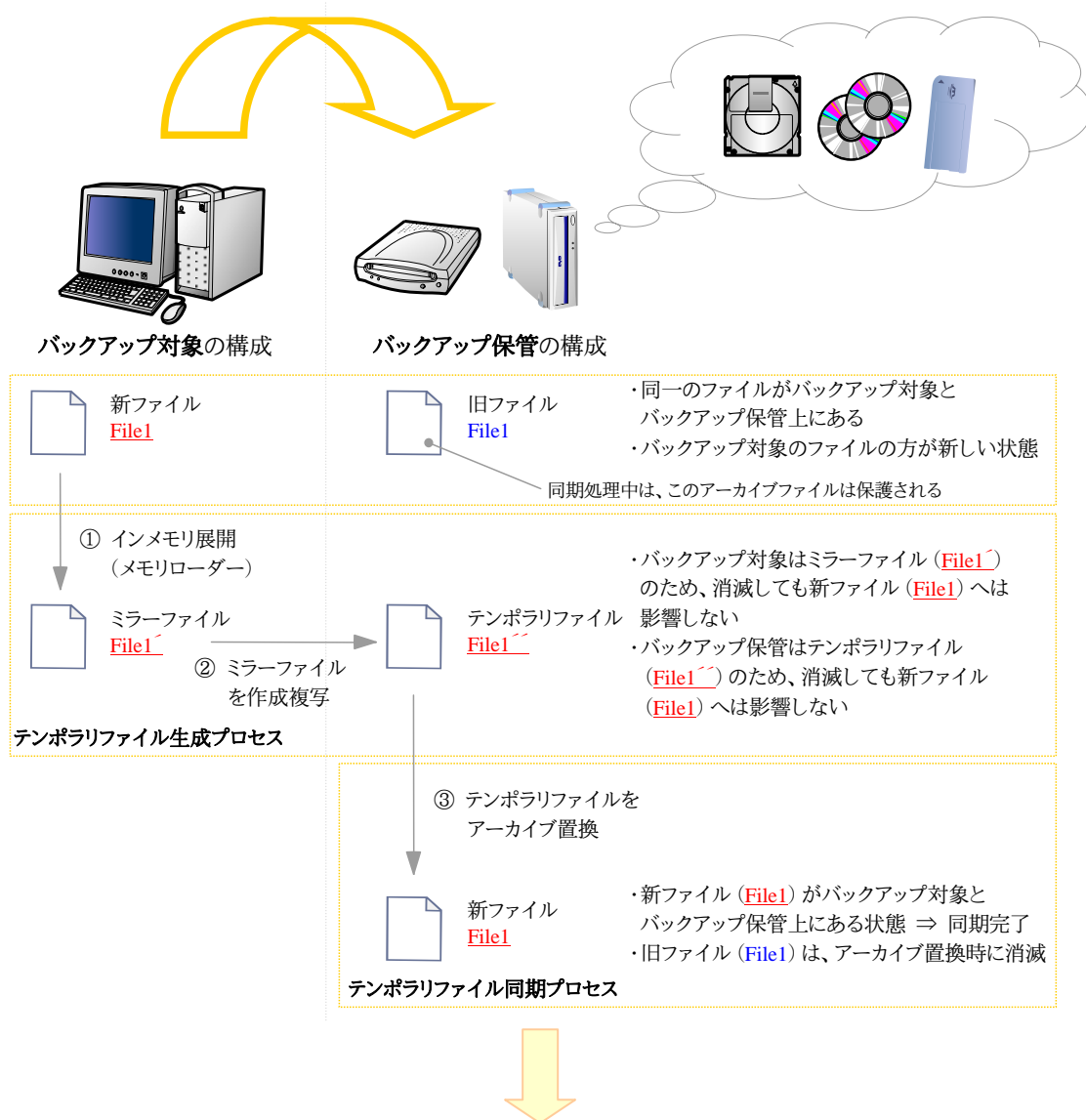
増分バックアップ処理と差分バックアップ処理を行うことにより  
『バックアップ対象』と『バックアップ保管』との構成が同一となりました  
(同期化完了)

### 3.4 トランザクション形ファイル同期処理

更新されたファイルを検知した場合、バックアップ対象からバックアップ保管に対してファイルを転送し、古いファイルを新しいファイルで上書きする動作がバックアップ手法としては一般的です。しかし、数ギガバイトもあるファイルやネットワーク越しでバックアップを行うような環境では、バックアップ処理が中断されるリスクが大きくなり、つまりバックアップを行っているにもかかわらずアーカイブや最新のデータが消失する恐れがあることを意味します。

このリスクを軽減する方法としてトランザクション方式によるファイル同期処理が有効な手段となります。

ある1つのファイルについて、バックアップ対象には最新のファイル (**File1**) が、バックアップ保管には最新前のファイル (**File1**) がある場合を例に動作を示します。



「テンポラリファイル生成プロセス」と「テンポラリファイル同期プロセス」の2つのプロセスを経由することにより『バックアップ対象』と『バックアップ保管』との間でクラッシュが発生しても新ファイルと旧ファイルは保護されます。  
バックアップを再実行することにより未完了のバックアップは正常に行われます  
(トランザクション形同期化完了)



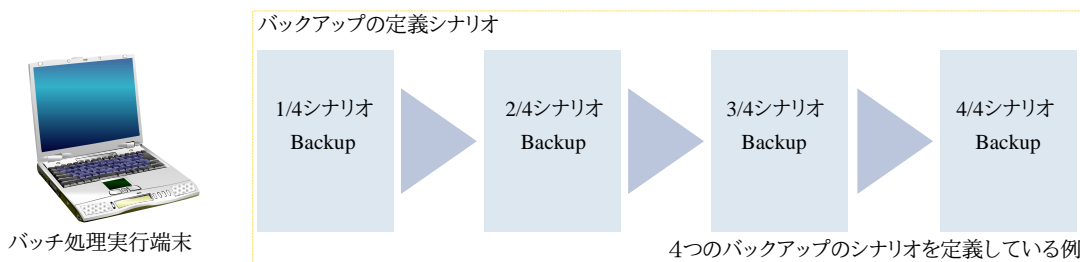
### 3.5 レジューム機能

複数のバックアップのシナリオを設定ファイルで定義し、それらのバッチを実行中に、ネットワークエラー、デバイスエラー、その他ディスクエラーなどが発生した場合は、バックアップの処理が中断してしまいます。

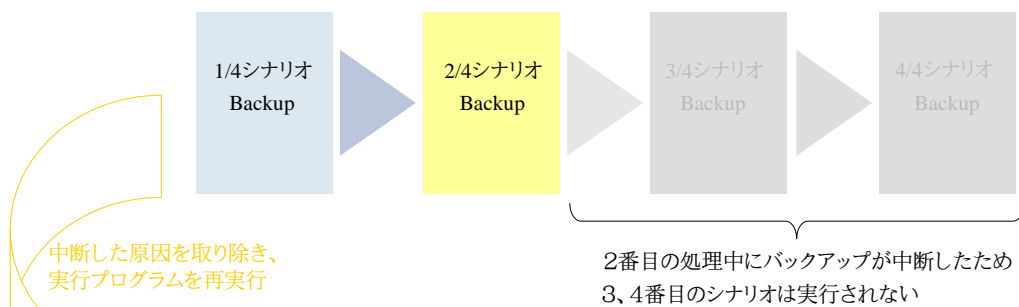
このような現象が発生した場合においては、エラーの原因を取り除き、その後エラーが発生したバッチからバックアップを再開できなければ、最初からバックアップをやり直すことになります。

仮に発生したエラーのタイミングが、バックアップ開始後数時間も経過している場合では、最初からやり直すことは現実的ではありません。

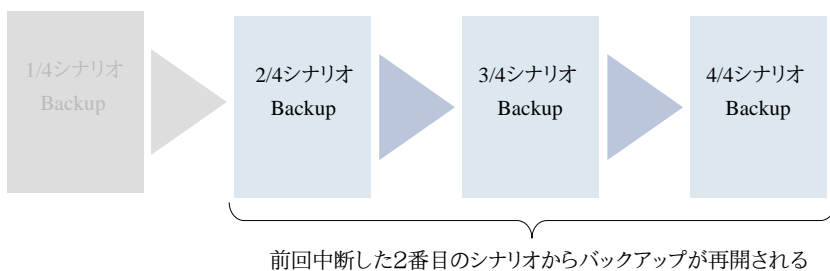
この問題を解決する方法としてレジューム機能によるバックアップが有効な手段となります。



#### ■ バッチ処理開始 - 2番目のシナリオでバックアップが中断



#### ■ バッチ処理再開 - 2番目のシナリオからバックアップを開始



なお、本設定内容はフォームバージョン1.1.3の内容を基準としています。

## 4.1 設定ファイルの互換性

次に該当する方は、設定ファイルの変更は必要ありません。

- ・ 新しい機能が不要な場合
- ・ 実行ファイル（プログラム）のみ最新版に変更する場合

## 4.2 Software セクション

このセクションは、sinbackup.ini（設定ファイル）が本ソフトウェアのために用意されたファイルであるなどを識別するために使用されます。

| 設定項目 ※2 | 既定値 ※1           | 説明   |  |           |      |   |       |            |   |       |                                 |   |       |  |   |       |  |   |       |   |   |       |                                      |
|---------|------------------|--|--|-----------|------|---|-------|------------|---|-------|---------------------------------|---|-------|--|---|-------|--|---|-------|---|---|-------|--------------------------------------|
| Name    | <b>SinBackup</b> | sinbackup.ini が本ソフトウェアのものであることを識別するための名称   |  |           |      |   |       |            |   |       |                                 |   |       |  |   |       |  |   |       |   |   |       |                                      |
| Version | 1.1.3            | <p>sinbackup.ini の設定内容が準拠するバージョン番号を設定します。<br/>今までにリリースされたバージョン番号は、次の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>フォームバージョン</th><th>強化機能</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td><td>1.0.1</td><td>ファーストリリース版</td></tr> <tr> <td>②</td><td>1.0.2</td><td>[System]セクション<br/>・ Message 機能追加</td></tr> <tr> <td>③</td><td>1.0.3</td><td>[System]セクション<br/>・ Log_Enclose 機能追加<br/>・ Byte_Unit 機能追加<br/>・ Load_Error_Protection 機能追加<br/>・ Write_Error_Protection 機能追加<br/>[Batch_Process]セクション<br/>・ Log_Record_Mode 機能追加</td></tr> <tr> <td>④</td><td>1.1.0</td><td>[System]セクション<br/>・ Sync_Properties 機能追加<br/>・ Readonly_Flag 機能追加<br/>[Log_Format]セクション追加</td></tr> <tr> <td>⑤</td><td>1.1.1</td><td>[System]セクション<br/>・ Root_Overwrite 機能追加<br/>[Batch_Process]セクション<br/>・ Precheck 機能追加</td></tr> <tr> <td>⑥</td><td>1.1.2</td><td>[System]セクション<br/>・ Path_Comment 機能追加</td></tr> </tbody> </table> |  | フォームバージョン | 強化機能 | ① | 1.0.1 | ファーストリリース版 | ② | 1.0.2 | [System]セクション<br>・ Message 機能追加 | ③ | 1.0.3 | [System]セクション<br>・ Log_Enclose 機能追加<br>・ Byte_Unit 機能追加<br>・ Load_Error_Protection 機能追加<br>・ Write_Error_Protection 機能追加<br>[Batch_Process]セクション<br>・ Log_Record_Mode 機能追加 | ④ | 1.1.0 | [System]セクション<br>・ Sync_Properties 機能追加<br>・ Readonly_Flag 機能追加<br>[Log_Format]セクション追加 | ⑤ | 1.1.1 | [System]セクション<br>・ Root_Overwrite 機能追加<br>[Batch_Process]セクション<br>・ Precheck 機能追加 | ⑥ | 1.1.2 | [System]セクション<br>・ Path_Comment 機能追加 |
|         | フォームバージョン        | 強化機能   |  |           |      |   |       |            |   |       |                                 |   |       |  |   |       |  |   |       |   |   |       |                                      |
| ①       | 1.0.1            | ファーストリリース版   |  |           |      |   |       |            |   |       |                                 |   |       |  |   |       |  |   |       |   |   |       |                                      |
| ②       | 1.0.2            | [System]セクション<br>・ Message 機能追加  |  |           |      |   |       |            |   |       |                                 |   |       |  |   |       |  |   |       |   |   |       |                                      |
| ③       | 1.0.3            | [System]セクション<br>・ Log_Enclose 機能追加<br>・ Byte_Unit 機能追加<br>・ Load_Error_Protection 機能追加<br>・ Write_Error_Protection 機能追加<br>[Batch_Process]セクション<br>・ Log_Record_Mode 機能追加   |  |           |      |   |       |            |   |       |                                 |   |       |  |   |       |  |   |       |   |   |       |                                      |
| ④       | 1.1.0            | [System]セクション<br>・ Sync_Properties 機能追加<br>・ Readonly_Flag 機能追加<br>[Log_Format]セクション追加   |  |           |      |   |       |            |   |       |                                 |   |       |  |   |       |  |   |       |   |   |       |                                      |
| ⑤       | 1.1.1            | [System]セクション<br>・ Root_Overwrite 機能追加<br>[Batch_Process]セクション<br>・ Precheck 機能追加  |  |           |      |   |       |            |   |       |                                 |   |       |  |   |       |  |   |       |   |   |       |                                      |
| ⑥       | 1.1.2            | [System]セクション<br>・ Path_Comment 機能追加   |  |           |      |   |       |            |   |       |                                 |   |       |  |   |       |  |   |       |   |   |       |                                      |

(続きは次ページへ...)

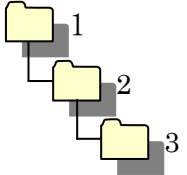
※ 1 既定値が赤色のものは変更不可の設定項目

※ 2 設定項目の記述は順不同可能。また、いずれも設定項目は必須

| 設定項目 | 既定値 | 説明   |   |
|------|-----|--|---|
|      |     | (...前ページからの続き)   |   |
|      |     |  |   |
|      |     | フォームバージョン  | 強化機能  |
|      |     | ⑥ 1.1.2  | [System]セクション<br>・ Write_Error_Protection 機能拡張<br>[Log_Format]セクション<br>・ Footer 機能拡張<br>・ File_Name 機能拡張            |
|      |     | ⑦ 1.1.3  | [System]セクション<br>・ Backup_Process_Mode 機能追加<br>・ Batch_Durability 機能追加<br>[Batch_Process]セクション<br>・ Extensions 機能追加 |
|      |     | これらのバージョン番号は、 <a href="#">プログラムバージョン2.2.0</a> で全てサポートされています。 |   |

4.3 System セクション

このセクションは、本ソフトウェアの動作に関する設定が行えます。

| 設定項目 ※1          | 既定値   | 説明  |  |     |    |   |       |                      |   |     |                |   |      |                        |
|------------------|-------|---|--|-----|----|---|-------|----------------------|---|-----|----------------|---|------|------------------------|
| Stack_Size       | 32    | <div><div>・バックアップ対象となる基底フォルダからの最大フォルダ深度を設定します。もし、<u>バックアップ対象の最大フォルダ深度が不足※2</u> する場合は、<u>この値を大きく</u>します。</div><div>・<u>最大フォルダ深度</u>とは、基底フォルダから連なるフォルダを伝った時の階層の最大値を指します。下記の場合、基底フォルダから最下層のフォルダまで3つのフォルダがある。この3階層目のフォルダの最大(限界)階層を表します。</div><div><div>基底フォルダ</div><div></div><div>現在のフォルダ階層の最大深度=3</div></div></div> |  |     |    |   |       |                      |   |     |                |   |      |                        |
| File_Count       | 99999 | 1バッチ当たりで処理できる最大ファイル数を設定します。もし、 <u>バックアップ対象の最大ファイル数が不足※2</u> する場合は、 <u>この値を大きく</u> します。  |  |     |    |   |       |                      |   |     |                |   |      |                        |
| Detect_Diff_Time | 5     | <div>・バックアップ対象とバックアップ保管に存在する同一ファイルについて、更新されたと判断するための最小の時間差(秒)を設定します。</div> <div>・仮に、バックアップ対象とバックアップ保管に同一のファイルがあり、バックアップ対象のほうが古いファイルであってもバックアップ保管との時間差がこの項目で指定された時間以上あればバックアップを行います。</div>   |  |     |    |   |       |                      |   |     |                |   |      |                        |
| Log_Separator    | “,”   | ログ出力の際、項目の間を識別する記号を設定します。   |  |     |    |   |       |                      |   |     |                |   |      |                        |
| Log_Enclose      | Quote | <div>ログ出力の際、項目の両端を囲む記号を設定します。</div> <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Quote</td><td>項目の両端をダブルクォーテーションで囲む</td></tr><tr><td>②</td><td>Tab</td><td>項目の両端を TAB で囲む</td></tr><tr><td>③</td><td>Free</td><td>項目の両端はなにもしない(そのままログ出力)</td></tr></table>   |  | 設定値 | 説明 | ① | Quote | 項目の両端をダブルクォーテーションで囲む | ② | Tab | 項目の両端を TAB で囲む | ③ | Free | 項目の両端はなにもしない(そのままログ出力) |
|                  | 設定値   | 説明  |  |     |    |   |       |                      |   |     |                |   |      |                        |
| ①                | Quote | 項目の両端をダブルクォーテーションで囲む  |  |     |    |   |       |                      |   |     |                |   |      |                        |
| ②                | Tab   | 項目の両端を TAB で囲む  |  |     |    |   |       |                      |   |     |                |   |      |                        |
| ③                | Free  | 項目の両端はなにもしない(そのままログ出力)  |  |     |    |   |       |                      |   |     |                |   |      |                        |

※ 1 設定項目の記述は順不同可能。また、いずれも設定項目は必須

※ 2 もし不足した場合は、『Range over exception.』とログ出力されます。

| 設定項目 ※1                | 既定値         | 説明   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
|------------------------|-------------|--|--|-----|----|---|----------|--|---|--------|------------------------|---|-------------|--|---|--------|------------------------|---|--------|------------------------|---|------|---|---|--------|--------------------|
| Byte_Unit              | Auto        | <p>ログ出力の項目にある、ファイルサイズのバイト単位の表記方法を設定します。</p> <table> <tr> <th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>①</td><td>Byte</td><td>バイト単位の表記として“バイト”を選択</td></tr> <tr> <td>②</td><td>K-Byte</td><td>バイト単位の表記として“キロ・バイト”を選択</td></tr> <tr> <td>③</td><td>M-Byte</td><td>バイト単位の表記として“メガ・バイト”を選択</td></tr> <tr> <td>④</td><td>G-Byte</td><td>バイト単位の表記として“ギガ・バイト”を選択</td></tr> <tr> <td>⑤</td><td>T-Byte</td><td>バイト単位の表記として“テラ・バイト”を選択</td></tr> <tr> <td>⑥</td><td>Auto</td><td>バイト単位の表記（バイト、キロ・バイト、メガ・バイト、ギガ・バイト、及びテラ・バイト）をファイルサイズに応じて自動的に選択</td></tr> <tr> <td>⑦</td><td>Unused</td><td>ファイルサイズをログ出力しない ※2</td></tr> </table> |  | 設定値 | 説明 | ① | Byte     | バイト単位の表記として“バイト”を選択  | ② | K-Byte | バイト単位の表記として“キロ・バイト”を選択 | ③ | M-Byte      | バイト単位の表記として“メガ・バイト”を選択                                   | ④ | G-Byte | バイト単位の表記として“ギガ・バイト”を選択 | ⑤ | T-Byte | バイト単位の表記として“テラ・バイト”を選択 | ⑥ | Auto | バイト単位の表記（バイト、キロ・バイト、メガ・バイト、ギガ・バイト、及びテラ・バイト）をファイルサイズに応じて自動的に選択 | ⑦ | Unused | ファイルサイズをログ出力しない ※2 |
|                        | 設定値         | 説明   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| ①                      | Byte        | バイト単位の表記として“バイト”を選択  |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| ②                      | K-Byte      | バイト単位の表記として“キロ・バイト”を選択   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| ③                      | M-Byte      | バイト単位の表記として“メガ・バイト”を選択   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| ④                      | G-Byte      | バイト単位の表記として“ギガ・バイト”を選択   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| ⑤                      | T-Byte      | バイト単位の表記として“テラ・バイト”を選択   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| ⑥                      | Auto        | バイト単位の表記（バイト、キロ・バイト、メガ・バイト、ギガ・バイト、及びテラ・バイト）をファイルサイズに応じて自動的に選択  |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| ⑦                      | Unused      | ファイルサイズをログ出力しない ※2   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| Load_Error_Protection  | Stop        | <p>バックアップ処理を実行中、バックアップ対象のドライブやファイルやフォルダへ読み込み処理を行おうとした際、アクセス権限の不足やロードエラーなどによりバックアップ処理が継続できない状態に陥った場合、その後のバックアップ処理をどの様に行うかを設定します。</p> <table> <tr> <th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>①</td><td>Stop</td><td>バックアップ処理を即時に中断</td></tr> </table>   |  | 設定値 | 説明 | ① | Stop     | バックアップ処理を即時に中断   |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
|                        | 設定値         | 説明   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| ①                      | Stop        | バックアップ処理を即時に中断   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| Write_Error_Protection | Continue    | <p>バックアップ処理を実行中、バックアップ保管のドライブやファイルやフォルダへ書き込み処理を行おうとした際、アクセス権限の不足やライトエラーなどによりバックアップ処理が継続できない状態に陥った場合、その後のバックアップ処理をどの様に行うかを設定します。</p> <table> <tr> <th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>①</td><td>Continue</td><td>           ・9 回連続ファイルやフォルダへのアクセス拒否が発生しない限りバックアップ処理を継続<br/>           ・アクセス拒否が間欠的な場合は、その都度連続アクセス拒否のカウンタをリセット         </td></tr> <tr> <td>②</td><td>Stop</td><td>バックアップ処理を即時に中断</td></tr> <tr> <td>③</td><td>Transaction</td><td><b>Continue</b> 動作に加え、書き込み可能な場合はトランザクション方式によるファイル同期処理を実行</td></tr> </table>  |  | 設定値 | 説明 | ① | Continue | ・9 回連続ファイルやフォルダへのアクセス拒否が発生しない限りバックアップ処理を継続<br>・アクセス拒否が間欠的な場合は、その都度連続アクセス拒否のカウンタをリセット | ② | Stop   | バックアップ処理を即時に中断         | ③ | Transaction | <b>Continue</b> 動作に加え、書き込み可能な場合はトランザクション方式によるファイル同期処理を実行 |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
|                        | 設定値         | 説明   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| ①                      | Continue    | ・9 回連続ファイルやフォルダへのアクセス拒否が発生しない限りバックアップ処理を継続<br>・アクセス拒否が間欠的な場合は、その都度連続アクセス拒否のカウンタをリセット   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| ②                      | Stop        | バックアップ処理を即時に中断   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |
| ③                      | Transaction | <b>Continue</b> 動作に加え、書き込み可能な場合はトランザクション方式によるファイル同期処理を実行   |  |     |    |   |          |  |   |        |                        |   |             |  |   |        |                        |   |        |                        |   |      |   |   |        |                    |

※ 1 設定項目の記述は順不同可能。また、いずれも設定項目は必須

※ 2 フォームバージョン 1.1.0 以降では、設定値が “Unused” の場合でも、“File\_Size” 設定項目の設定値が “Active” の場合、ログ出力されます【後方互換動作】。

| 設定項目 ※1      | 既定値    | 説明   |  |     |    |   |        |                                   |   |        |                                  |   |        |                     |   |       |                     |
|--------------|--------|--|--|-----|----|---|--------|-----------------------------------|---|--------|----------------------------------|---|--------|---------------------|---|-------|---------------------|
| Path_Comment | Used   | <p><b>Batch_Process</b> セクションにある <b>Source_Path</b> 設定項目、<b>Destination_Path</b>設定項目、及び<b>Log_Path</b>設定項目について、半角のシングルクォーテーションの取り扱いを設定します。</p> <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Used</td><td>パスに含まれる半角シングルクォーテーションをコメント記号として扱う</td></tr><tr><td>②</td><td>Unused</td><td>パスに含まれる半角シングルクォーテーションをパスの一部として扱う</td></tr></table> <p>設定値の違いにより、<code>'</code>（半角シングルクォーテーション）がどのように処理されるのか示します。</p> <p>パス構成例：</p> <p><code>D:¥My Documents¥Jmusic10 '2010 年邦楽</code></p> <p>設定値が <b>Used</b> の場合は、<code>'</code> 以降もパスの一部として認識されます。</p> <p><code>D:¥My Documents¥Jmusic10 '2010 年邦楽</code></p> <p>設定値が <b>Unused</b> の場合は、<code>'</code> 以降はパスとしては無視されます。</p> <p><code>D:¥My Documents¥Music10</code></p> |  | 設定値 | 説明 | ① | Used   | パスに含まれる半角シングルクォーテーションをコメント記号として扱う | ② | Unused | パスに含まれる半角シングルクォーテーションをパスの一部として扱う |   |        |                     |   |       |                     |
|              | 設定値    | 説明   |  |     |    |   |        |                                   |   |        |                                  |   |        |                     |   |       |                     |
| ①            | Used   | パスに含まれる半角シングルクォーテーションをコメント記号として扱う  |  |     |    |   |        |                                   |   |        |                                  |   |        |                     |   |       |                     |
| ②            | Unused | パスに含まれる半角シングルクォーテーションをパスの一部として扱う   |  |     |    |   |        |                                   |   |        |                                  |   |        |                     |   |       |                     |
| Message      | Normal | <p>画面に表示されるメッセージの程度を設定します。</p> <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Silent</td><td>バッチ処理向け、エラーを含め画面への表示なし</td></tr><tr><td>②</td><td>Normal</td><td>終了時やエラーなどの一般メッセージを画面表示</td></tr><tr><td>③</td><td>Finish</td><td>終了時とエラーのみメッセージを画面表示</td></tr><tr><td>④</td><td>Debug</td><td>開発者向け、全てのメッセージを画面表示</td></tr></table>   |  | 設定値 | 説明 | ① | Silent | バッチ処理向け、エラーを含め画面への表示なし            | ② | Normal | 終了時やエラーなどの一般メッセージを画面表示           | ③ | Finish | 終了時とエラーのみメッセージを画面表示 | ④ | Debug | 開発者向け、全てのメッセージを画面表示 |
|              | 設定値    | 説明   |  |     |    |   |        |                                   |   |        |                                  |   |        |                     |   |       |                     |
| ①            | Silent | バッチ処理向け、エラーを含め画面への表示なし   |  |     |    |   |        |                                   |   |        |                                  |   |        |                     |   |       |                     |
| ②            | Normal | 終了時やエラーなどの一般メッセージを画面表示   |  |     |    |   |        |                                   |   |        |                                  |   |        |                     |   |       |                     |
| ③            | Finish | 終了時とエラーのみメッセージを画面表示  |  |     |    |   |        |                                   |   |        |                                  |   |        |                     |   |       |                     |
| ④            | Debug  | 開発者向け、全てのメッセージを画面表示  |  |     |    |   |        |                                   |   |        |                                  |   |        |                     |   |       |                     |

※ 1 設定項目の記述は順不同可能。また、いずれも設定項目は必須

| 設定項目 ※1               | 既定値         | 説明  |  |     |    |   |      |                 |   |        |                                |   |             |                               |
|-----------------------|-------------|---|--|-----|----|---|------|-----------------|---|--------|--------------------------------|---|-------------|-------------------------------|
| Sync_Properties<br>※2 | Full        | <p>バックアップ対象からバックアップ保管へファイルやディレクトリの属性を反映するにあたり、どの程度の頻度で属性を反映させるのか設定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td><td>Full</td><td>全ての属性を反映する</td></tr> <tr> <td>②</td><td>Normal</td><td>新規もしくは更新されたファイルやディレクトリの属性を反映する</td></tr> <tr> <td>③</td><td>Discard</td><td>全ての属性を反映しない</td></tr> </tbody> </table>    |  | 設定値 | 説明 | ① | Full | 全ての属性を反映する      | ② | Normal | 新規もしくは更新されたファイルやディレクトリの属性を反映する | ③ | Discard     | 全ての属性を反映しない                   |
|                       | 設定値         | 説明  |  |     |    |   |      |                 |   |        |                                |   |             |                               |
| ①                     | Full        | 全ての属性を反映する  |  |     |    |   |      |                 |   |        |                                |   |             |                               |
| ②                     | Normal      | 新規もしくは更新されたファイルやディレクトリの属性を反映する  |  |     |    |   |      |                 |   |        |                                |   |             |                               |
| ③                     | Discard     | 全ての属性を反映しない   |  |     |    |   |      |                 |   |        |                                |   |             |                               |
| Readonly_Flag<br>※2   | Synchronize | <p>バックアップ対象からバックアップ保管へファイルやディレクトリの読み取り専用属性を反映するにあたり、その反映方法を設定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td><td>On</td><td>読み取り専用属性を常時設定する</td></tr> <tr> <td>②</td><td>Off</td><td>読み取り専用属性を常時設定しない</td></tr> <tr> <td>③</td><td>Synchronize</td><td>バックアップ対象の読み取り専用属性をバックアップ保管に同期</td></tr> </tbody> </table> |  | 設定値 | 説明 | ① | On   | 読み取り専用属性を常時設定する | ② | Off    | 読み取り専用属性を常時設定しない               | ③ | Synchronize | バックアップ対象の読み取り専用属性をバックアップ保管に同期 |
|                       | 設定値         | 説明  |  |     |    |   |      |                 |   |        |                                |   |             |                               |
| ①                     | On          | 読み取り専用属性を常時設定する   |  |     |    |   |      |                 |   |        |                                |   |             |                               |
| ②                     | Off         | 読み取り専用属性を常時設定しない  |  |     |    |   |      |                 |   |        |                                |   |             |                               |
| ③                     | Synchronize | バックアップ対象の読み取り専用属性をバックアップ保管に同期   |  |     |    |   |      |                 |   |        |                                |   |             |                               |

※ 1 設定項目の記述は順不同可能。また、いずれも設定項目は必須

※ 2 “Sync\_Properties” と “Readonly\_Flag” 設定項目の組み合わせにより次の様な制御が可能となります。

| Sync_Properties | Readonly_Flag | バックアップ方式の選定  |
|-----------------|---------------|--|
| Full            | On            | 全てのファイルやディレクトリの属性について、バックアップ対象の属性をバックアップ保管へ反映する。その際、読み取り専用属性を付加する。   |
|                 | Off           | 全てのファイルやディレクトリの属性について、バックアップ対象の属性をバックアップ保管へ反映する。その際、読み取り専用属性を解除する。   |
|                 | Synchronize   | 全てのファイルやディレクトリの属性について、バックアップ対象の属性をバックアップ保管へ反映する。読み取り専用属性も同様。         |
| Normal          | On            | 更新対象のファイルやディレクトリの属性について、バックアップ対象の属性をバックアップ保管へ反映する。その際、読み取り専用属性を付加する。 |
|                 | Off           | 更新対象のファイルやディレクトリの属性について、バックアップ対象の属性をバックアップ保管へ反映する。その際、読み取り専用属性を解除する。 |
|                 | Synchronize   | 更新対象のファイルやディレクトリの属性について、バックアップ対象の属性をバックアップ保管へ反映する。読み取り専用属性も同様。       |
| Discard ※3      | On            | 全てのファイルやディレクトリの属性について、バックアップ対象の属性をバックアップ保管へ反映しない。その際、読み取り専用属性も反映しない。 |
|                 | Off           | 全てのファイルやディレクトリの属性について、バックアップ対象の属性をバックアップ保管へ反映しない。その際、読み取り専用属性も反映しない。 |
|                 | Synchronize   | 全てのファイルやディレクトリの属性について、バックアップ対象の属性をバックアップ保管へ反映しない。読み取り専用属性も同様。        |

※ 3 見方を変えると、既存バックアップ保管の属性は全て維持されることを意味します。

| 設定項目 ※1                    | 既定値            | 説明  |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
|----------------------------|----------------|---|--|-----|----|---|-----------|---------------------|---|----------------|--------------------|---|----------|----------------------------------|---|-------|----------------|
| Root_Overwrite             | Trust          | <div><div>・バックアップ保管に指定されたフォルダ階層について、ルート階層が指定されている場合、バックアップの継続をどのように促すのか設定します。※2</div><div>・設定値が <b>Check</b> 状態において、<b>Message</b> 設定項目の設定値が <b>Silent</b> もしくは <b>Finish</b> の場合、ユーザーへの確認動作が行えないためエラーとなります。この解決方法は、設定値を <b>Trust</b> にする、もしくは <b>Message</b> 設定項目の設定値を <b>Normal</b> にする方法があります。※3</div></div> <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Trust</td><td>ルート階層への上書きの有無を確認しない</td></tr><tr><td>②</td><td>Check</td><td>ルート階層への上書きの有無を確認する</td></tr></table> |  | 設定値 | 説明 | ① | Trust     | ルート階層への上書きの有無を確認しない | ② | Check          | ルート階層への上書きの有無を確認する |   |          |                                  |   |       |                |
|                            | 設定値            | 説明  |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
| ①                          | Trust          | ルート階層への上書きの有無を確認しない   |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
| ②                          | Check          | ルート階層への上書きの有無を確認する  |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
| *Backup_Process_Mode<br>※6 | Add_First      | <div>バックアップ対象からバックアップ保管へバックアップを行うにあたり、差分バックアップ処理と増分バックアップ処理をどのような優先度で行うのか設定します。</div> <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Add_First</td><td>増分、差分の順でバックアップを行う</td></tr><tr><td>②</td><td>Subtract_First</td><td>差分、増分の順でバックアップを行う</td></tr><tr><td>③</td><td>Realtime</td><td>増分と差分を効率的に切り替えながらバックアップを行う</td></tr><tr><td>④</td><td>Force</td><td>増分のみでバックアップを行う</td></tr></table>  |  | 設定値 | 説明 | ① | Add_First | 増分、差分の順でバックアップを行う   | ② | Subtract_First | 差分、増分の順でバックアップを行う  | ③ | Realtime | 増分と差分を効率的に切り替えながらバックアップを行う       | ④ | Force | 増分のみでバックアップを行う |
|                            | 設定値            | 説明  |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
| ①                          | Add_First      | 増分、差分の順でバックアップを行う   |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
| ②                          | Subtract_First | 差分、増分の順でバックアップを行う   |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
| ③                          | Realtime       | 増分と差分を効率的に切り替えながらバックアップを行う  |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
| ④                          | Force          | 増分のみでバックアップを行う  |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
| *Batch_Durability          | Exit           | <div>バックアップの処理中において、ネットワークエラー、デバイスエラー、その他ディスクエラーなどが発生してバックアップが中断した場合は、これらの原因を取り除いた後どのようにバックアップを再開するのか設定します。</div> <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Exit</td><td>最初からバックアップを始める</td></tr><tr><td>②</td><td>Resume</td><td>中断したバックアップから始める</td></tr><tr><td>③</td><td>Server</td><td>ステータスファイルを利用せずに最初からバックアップを始める ※5</td></tr></table>  |  | 設定値 | 説明 | ① | Exit      | 最初からバックアップを始める      | ② | Resume         | 中断したバックアップから始める    | ③ | Server   | ステータスファイルを利用せずに最初からバックアップを始める ※5 |   |       |                |
|                            | 設定値            | 説明  |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
| ①                          | Exit           | 最初からバックアップを始める  |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
| ②                          | Resume         | 中断したバックアップから始める   |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |
| ③                          | Server         | ステータスファイルを利用せずに最初からバックアップを始める ※5  |  |     |    |   |           |                     |   |                |                    |   |          |                                  |   |       |                |

- ※ 1 設定項目の記述は順不同可能。また、いずれも設定項目は必須
- ※ 2 ルート階層は、別名ルートディレクトリ（ルートフォルダ）を指す用語（例：C:¥ だと、Cドライブのルートディレクトリ）
- ※ 3 “Message” 設定項目は、[System] セクションに含まれる設定項目
- ※ 4 \*表記の設定項目は、フォームバージョン 1.1.3 で新設された設定項目
- ※ 5 ファイルのアクセス権や所有権により sinstatus.ini（ステータスファイル）への書き込みが制限されている場合に指定します（プログラムバージョン 2.1.2 までの動作モードと互換）。通常は “Exit” 指定で問題ありません。

(※6の補足の詳細は、次ページ参照)



※ 6 それぞれの設定値の特徴は次の通りです。

| 設定値            | バックアッププロセスモードの選定 |      |     |     |   |
|----------------|------------------|------|-----|-----|---|
|                | ワークスペース          | 処理時間 | 信頼性 | 互換性 | 特徴  |
| Add_First      | ×                | ×    | ◎   | ◎   | 【信頼性の高いバックアップ方式】<br>・ テンポラリディスクが必要 ※7<br>・ ディスク容量の多い固定記憶装置向け                                  |
| Subtract_First | ◎                | ×    | ○   | ×   | 【ディスク効率が高いバックアップ方式】<br>・ テンポラリディスクが不要 ※7<br>・ Add_First と比べると信頼性に劣る<br>・ ディスク容量の少ないリムーバブル装置向け |
| Realtime       | ○                | ○    | ◎   | ◎   | 【バランスの取れたバックアップ方式】<br>・ Add_First と Subtract_First の長所を両立                                     |
| Force          | ◎                | ◎    | ×   | ×   | 【高速バックアップ方式】<br>・ 差分バックアップ処理を省略して高速化<br>・ 冗長増加データのバックアップに最適<br>・ テープなどシーケンシャル装置向け             |

※ 7 テンポラリディスクとは、バックアップ対象側に確保する一時的な作業ファイルを保存するためのディスク領域のことです。ワークスペースともいいます。

4.4 Core\_System セクション

このセクションは、VBScript の動作に関する設定が行えます。

| 設定項目 ※2      | 既定値 ※1      | 説明   |  |     |    |   |         |                                      |   |       |                                      |   |         |                          |
|--------------|-------------|--|--|-----|----|---|---------|--------------------------------------|---|-------|--------------------------------------|---|---------|--------------------------|
| Script       | VBScript5.0 | 本プログラムの処理可能なスクリプトエンジンを設定します。   |  |     |    |   |         |                                      |   |       |                                      |   |         |                          |
| Sector_Bytes | 1000        | 1 キロバイト当たりのバイト数を設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>1000</td><td>1k(Byte)=1000(Byte)としてディスク容量が計算されます。</td></tr><tr><td>②</td><td>1024</td><td>1k(Byte)=1024(Byte)としてディスク容量が計算されます。</td></tr></table>  |  | 設定値 | 説明 | ① | 1000    | 1k(Byte)=1000(Byte)としてディスク容量が計算されます。 | ② | 1024  | 1k(Byte)=1024(Byte)としてディスク容量が計算されます。 |   |         |                          |
|              | 設定値         | 説明   |  |     |    |   |         |                                      |   |       |                                      |   |         |                          |
| ①            | 1000        | 1k(Byte)=1000(Byte)としてディスク容量が計算されます。   |  |     |    |   |         |                                      |   |       |                                      |   |         |                          |
| ②            | 1024        | 1k(Byte)=1024(Byte)としてディスク容量が計算されます。   |  |     |    |   |         |                                      |   |       |                                      |   |         |                          |
| Encoding     | Default     | ログ出力ファイルの文字エンコードタイプを設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Default</td><td>環境に合わせて自動的にエンコードタイプを決定</td></tr><tr><td>②</td><td>ASCII</td><td>エンコードタイプを ASCII モードに設定</td></tr><tr><td>③</td><td>Unicode</td><td>エンコードタイプを Unicode モードに設定</td></tr></table> <p>・文字エンコードとは、日本語動作環境において使用される文字形式を指します。通常は自動設定の <b>Default</b> から変更する必要はありません。</p> <p>・エラー(E014)が発生する場合は、<b>Unicode</b> に設定します。この場合、あらかじめすべてを新しいログファイルに変更してください。そのままログファイルに追記書き込みを行うと、文字化けが発生する場合があります。※3</p> |  | 設定値 | 説明 | ① | Default | 環境に合わせて自動的にエンコードタイプを決定               | ② | ASCII | エンコードタイプを ASCII モードに設定               | ③ | Unicode | エンコードタイプを Unicode モードに設定 |
|              | 設定値         | 説明   |  |     |    |   |         |                                      |   |       |                                      |   |         |                          |
| ①            | Default     | 環境に合わせて自動的にエンコードタイプを決定   |  |     |    |   |         |                                      |   |       |                                      |   |         |                          |
| ②            | ASCII       | エンコードタイプを ASCII モードに設定   |  |     |    |   |         |                                      |   |       |                                      |   |         |                          |
| ③            | Unicode     | エンコードタイプを Unicode モードに設定   |  |     |    |   |         |                                      |   |       |                                      |   |         |                          |

- ※ 1 既定値が赤色のものは変更不可の設定項目
- ※ 2 設定項目の記述は順不同可能。また、いずれも設定項目は必須
- ※ 3 設定値が “Unicode” で記録されたログファイルは、Unicode 対応エディタでのみご覧いただけます。

#### 4.5 Log\_Format セクション

このセクションは、ログ出力の動作に関する設定が行えます。

| 設定項目 ※1 | 既定値     | 説明  |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
|---------|---------|---|--|-----|----|---|---------|--------------|---|--------|---------------|---|-------|----------------|---|------|---|
| Header  | Specify | ログ出力開始時に記録される内容について設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Specify</td><td>詳細内容を記録</td></tr><tr><td>②</td><td>Simple</td><td>簡易内容を記録</td></tr><tr><td>③</td><td>Sleep</td><td>バックアップ開始を記録しない</td></tr></table>   |  | 設定値 | 説明 | ① | Specify | 詳細内容を記録      | ② | Simple | 簡易内容を記録       | ③ | Sleep | バックアップ開始を記録しない |   |      |   |
|         | 設定値     | 説明  |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| ①       | Specify | 詳細内容を記録   |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| ②       | Simple  | 簡易内容を記録   |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| ③       | Sleep   | バックアップ開始を記録しない  |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| Footer  | Specify | ログ出力終了時に記録される内容について設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Specify</td><td>詳細内容を記録</td></tr><tr><td>②</td><td>Simple</td><td>簡易内容を記録</td></tr><tr><td>③</td><td>Sleep</td><td>バックアップ終了を記録しない</td></tr><tr><td>④</td><td>Fine</td><td><b>Specify</b> 動作に加え、バックアップ保管のディスク容量を記録</td></tr></table> |  | 設定値 | 説明 | ① | Specify | 詳細内容を記録      | ② | Simple | 簡易内容を記録       | ③ | Sleep | バックアップ終了を記録しない | ④ | Fine | <b>Specify</b> 動作に加え、バックアップ保管のディスク容量を記録 |
|         | 設定値     | 説明  |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| ①       | Specify | 詳細内容を記録   |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| ②       | Simple  | 簡易内容を記録   |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| ③       | Sleep   | バックアップ終了を記録しない  |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| ④       | Fine    | <b>Specify</b> 動作に加え、バックアップ保管のディスク容量を記録   |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| Number  | Active  | バックアップ処理に一意に割り振られる番号について、ログ出力方法を設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Active</td><td>一意の番号をログ出力する</td></tr><tr><td>②</td><td>Sleep</td><td>一意の番号をログ出力しない</td></tr></table>   |  | 設定値 | 説明 | ① | Active  | 一意の番号をログ出力する | ② | Sleep  | 一意の番号をログ出力しない |   |       |                |   |      |   |
|         | 設定値     | 説明  |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| ①       | Active  | 一意の番号をログ出力する  |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| ②       | Sleep   | 一意の番号をログ出力しない   |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| Date    | Active  | バックアップ処理が行われた時刻について、ログ出力方法を設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Active</td><td>処理時刻をログ出力する</td></tr><tr><td>②</td><td>Sleep</td><td>処理時刻をログ出力しない</td></tr></table>  |  | 設定値 | 説明 | ① | Active  | 処理時刻をログ出力する  | ② | Sleep  | 処理時刻をログ出力しない  |   |       |                |   |      |   |
|         | 設定値     | 説明  |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| ①       | Active  | 処理時刻をログ出力する   |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |
| ②       | Sleep   | 処理時刻をログ出力しない  |  |     |    |   |         |              |   |        |               |   |       |                |   |      |   |

※ 1 設定項目の記述は順不同不可。また、いずれも設定項目は必須

| 設定項目 ※1          | 既定値          | 説明   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
|------------------|--------------|--|--|-----|----|---|--------|---|---|-------|----------------------------------|---|--------------|--|
| Process          | Active       | バックアップ処理が行われた内容について、ログ出力方法を設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Active</td><td>処理内容をログ出力する</td></tr><tr><td>②</td><td>Sleep</td><td>処理内容をログ出力しない</td></tr></table>   |  | 設定値 | 説明 | ① | Active | 処理内容をログ出力する                               | ② | Sleep | 処理内容をログ出力しない                     |   |              |  |
|                  | 設定値          | 説明   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| ①                | Active       | 処理内容をログ出力する  |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| ②                | Sleep        | 処理内容をログ出力しない   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| Source_Path      | Sleep        | バックアップ対象のファイルやフォルダの存在位置（フルパス形式）について、ログ出力方法を設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Active</td><td>存在位置をログ出力する</td></tr><tr><td>②</td><td>Sleep</td><td>存在位置をログ出力しない</td></tr></table>   |  | 設定値 | 説明 | ① | Active | 存在位置をログ出力する                               | ② | Sleep | 存在位置をログ出力しない                     |   |              |  |
|                  | 設定値          | 説明   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| ①                | Active       | 存在位置をログ出力する  |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| ②                | Sleep        | 存在位置をログ出力しない   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| Destination_Path | Sleep        | バックアップ保管のファイルやフォルダの存在位置（フルパス形式）について、ログ出力方法を設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Active</td><td>存在位置をログ出力する</td></tr><tr><td>②</td><td>Sleep</td><td>存在位置をログ出力しない</td></tr></table>   |  | 設定値 | 説明 | ① | Active | 存在位置をログ出力する                               | ② | Sleep | 存在位置をログ出力しない                     |   |              |  |
|                  | 設定値          | 説明   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| ①                | Active       | 存在位置をログ出力する  |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| ②                | Sleep        | 存在位置をログ出力しない   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| File_Name        | Active       | バックアップ処理が行われたファイル名について、ログ出力方法を設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Active</td><td>・ファイル名をログ出力する<br/>・新規や削除されたフォルダへのパスをログ出力する</td></tr><tr><td>②</td><td>Sleep</td><td>ファイル名、及び新規や削除されたフォルダへのパスをログ出力しない</td></tr><tr><td>③</td><td>No_Directory</td><td>・ファイル名をログ出力する<br/>・新規や削除されたフォルダへのパスをログ出力しない</td></tr></table> |  | 設定値 | 説明 | ① | Active | ・ファイル名をログ出力する<br>・新規や削除されたフォルダへのパスをログ出力する | ② | Sleep | ファイル名、及び新規や削除されたフォルダへのパスをログ出力しない | ③ | No_Directory | ・ファイル名をログ出力する<br>・新規や削除されたフォルダへのパスをログ出力しない |
|                  | 設定値          | 説明   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| ①                | Active       | ・ファイル名をログ出力する<br>・新規や削除されたフォルダへのパスをログ出力する  |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| ②                | Sleep        | ファイル名、及び新規や削除されたフォルダへのパスをログ出力しない   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| ③                | No_Directory | ・ファイル名をログ出力する<br>・新規や削除されたフォルダへのパスをログ出力しない   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| File_Size<br>※2  | Active       | ・バックアップ処理が行われたファイルのサイズについて、ログ出力方法を設定します。<br>・フォルダの場合は、サイズは空が設定されます。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Active</td><td>ファイルのサイズをログ出力する</td></tr><tr><td>②</td><td>Sleep</td><td>ファイルのサイズをログ出力しない</td></tr></table>   |  | 設定値 | 説明 | ① | Active | ファイルのサイズをログ出力する                           | ② | Sleep | ファイルのサイズをログ出力しない                 |   |              |  |
|                  | 設定値          | 説明   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| ①                | Active       | ファイルのサイズをログ出力する  |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |
| ②                | Sleep        | ファイルのサイズをログ出力しない   |  |     |    |   |        |   |   |       |                                  |   |              |  |

※ 1 設定項目の記述は順不同不可。また、いずれも設定項目は必須

※ 2 設定値が “Sleep” の場合でも、“Byte\_Unit” 設定項目の設定値が “Unused” 以外の場合、ログ出力されます。

【後方互換動作】

| 設定項目 ※1       | 既定値 ※3 | 説明                   |                  |  |
|---------------|--------|----------------------|------------------|--|
| Sort_Order    | Auto   | ログ出力される項目の記録順を設定します。 |                  |  |
|               |        |                      |                  |  |
|               |        | ①                    | Auto             | ・設定値が <b>Active</b> 指定された <b>Number</b> 、 <b>Date</b> 、 <b>Process</b> 、 <b>Source_Path</b> ※2、 <b>Destination_Path</b> ※2、 <b>File_Name</b> 、及び <b>File_Size</b> の設定項目について、並び順を自動的に決定してログ出力<br>・設定値が <b>No_Directory</b> 指定された <b>File_Name</b> 設定項目の場合も並び順を自動的に決定してログ出力<br>・ <b>Auto</b> が指定された場合は、②から⑧の設定値は指定できません。 |
|               |        | ②                    | Number           | ・バックアップ処理に一意に割り振られる番号について、指定番目にログ出力<br>・ <b>Number</b> 設定項目が <b>Active</b> 時のみ指定可能   |
|               |        | ③                    | Date             | ・バックアップ処理が行われた時刻について、指定番目にログ出力<br>・ <b>Date</b> 設定項目が <b>Active</b> 時のみ指定可能  |
|               |        | ④                    | Process          | ・バックアップ処理が行われた内容について、指定番目にログ出力<br>・ <b>Process</b> 設定項目が <b>Active</b> 時のみ指定可能   |
|               |        | ⑤                    | Source_Path      | ・バックアップ対象のファイルやフォルダの存在位置について、指定番目にログ出力<br>・ <b>Source_Path</b> 設定項目が <b>Active</b> 時のみ指定可能 ※2  |
|               |        | ⑥                    | Destination_Path | ・バックアップ保管のファイルやフォルダの存在位置について、指定番目にログ出力<br>・ <b>Destination_Path</b> 設定項目が <b>Active</b> 時のみ指定可能 ※2   |
| (続きは次ページへ...) |        |                      |                  |  |

- ※ 1 設定項目の記述は順不同不可。また、いずれも設定項目は必須
- ※ 2 [Log\_Format] セクションの設定項目
- ※ 3 "Sort\_Order" 設定項目は、複数の設定値をカンマ区切りで指定可能

| 設定項目 | 既定値             | 説明  |  |     |    |   |           |  |   |                 |   |
|------|-----------------|---|--|-----|----|---|-----------|--|---|-----------------|---|
|      |                 | (...前ページからの続き) <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>⑦</td><td>File_Name</td><td>・バックアップ処理が行われたファイル名について、指定番目にログ出力<br/>・File_Name 設定項目が Active または No_Directory 時に指定可能</td></tr><tr><td>⑧</td><td>File_Size<br/>※4</td><td>・バックアップ処理が行われたファイルのサイズについて、指定番目にログ出力<br/>・File_Size 設定項目が Active 時のみ指定可能</td></tr></table>   |  | 設定値 | 説明 | ⑦ | File_Name | ・バックアップ処理が行われたファイル名について、指定番目にログ出力<br>・File_Name 設定項目が Active または No_Directory 時に指定可能 | ⑧ | File_Size<br>※4 | ・バックアップ処理が行われたファイルのサイズについて、指定番目にログ出力<br>・File_Size 設定項目が Active 時のみ指定可能 |
|      | 設定値             | 説明  |  |     |    |   |           |  |   |                 |   |
| ⑦    | File_Name       | ・バックアップ処理が行われたファイル名について、指定番目にログ出力<br>・File_Name 設定項目が Active または No_Directory 時に指定可能  |  |     |    |   |           |  |   |                 |   |
| ⑧    | File_Size<br>※4 | ・バックアップ処理が行われたファイルのサイズについて、指定番目にログ出力<br>・File_Size 設定項目が Active 時のみ指定可能   |  |     |    |   |           |  |   |                 |   |
|      |                 | 入力例を示します。<br>代表的な設定項目の設定値を次の様に設定した場合は、<br><i>Number</i> = Active<br><i>Date</i> = Active<br><i>Process</i> = Active<br><i>Source_Path</i> = Sleep<br><i>Destination_Path</i> = Sleep<br><i>File_Name</i> = Active<br><i>File_Size</i> = Sleep<br><br>以下の様に並び順が設定可能です。<br><i>Sort_Order</i> = <i>Number, Process, Date, File_Name</i><br><br>この場合のログに記録される内容は、<br><i>1, Create file, 2009/06/29 15:15:00, Sample File Name.txt</i><br>① 1 番目として赤色の部分が Number に関する記録<br>② 2番目として緑色の部分が Process に関する記録<br>③ 3番目として青色の部分が Date に関する記録<br>④ 4番目として橙色の部分が File_Name に関する記録<br>のようになります。 |  |     |    |   |           |  |   |                 |   |

※ 4 “File\_Size” 設定項目の設定値が “Sleep” の場合でも、“Byte\_Unit” 設定項目の設定値が “Unused” 以外の  
場合、“Sort\_Order” 設定項目の並び順として “File\_Size” 設定値を指定しないとバックアップは開始されません  
【後方互換動作】。

## 4.6 Batch\_Process セクション

このセクションは、バックアップの指示内容をバッチ処理として定義します。

| 設定項目 ※1          | 既定値                          | 説明  |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
|------------------|------------------------------|---|--|-----|----|---|--------|--------------------------|---|--------|--|---|--------|-------------|
| Title            | 文字列                          | バックアップ処理の名称を定義します。この名前は、ログ出力のタイトルとして用いられます。   |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| Backup_Mode      | Active/<br>Sleep             | バックアップ処理の動作の可否を設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Active</td><td>バックアップの対象となりバッチ処理が行われます。</td></tr><tr><td>②</td><td>Sleep</td><td>バックアップの対象とはならずバッチ処理は行われません。但し、<b>Source_Path</b>、<b>Destination_Path</b>、及び <b>Log_Path</b> 設定項目の有効性については検証されます。</td></tr></table> |  | 設定値 | 説明 | ① | Active | バックアップの対象となりバッチ処理が行われます。 | ② | Sleep  | バックアップの対象とはならずバッチ処理は行われません。但し、 <b>Source_Path</b> 、 <b>Destination_Path</b> 、及び <b>Log_Path</b> 設定項目の有効性については検証されます。 |   |        |             |
|                  | 設定値                          | 説明  |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| ①                | Active                       | バックアップの対象となりバッチ処理が行われます。  |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| ②                | Sleep                        | バックアップの対象とはならずバッチ処理は行われません。但し、 <b>Source_Path</b> 、 <b>Destination_Path</b> 、及び <b>Log_Path</b> 設定項目の有効性については検証されます。  |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| Log_Record_Mode  | Append/<br>Single/<br>Unused | ログ出力の可否を含めログの記録方法を設定します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Append</td><td>バックアップ処理の度に同ファイルへ記録</td></tr><tr><td>②</td><td>Single</td><td>バックアップ処理の度に新ファイルへ記録</td></tr><tr><td>③</td><td>Unused</td><td>ログ出力は行わない※3</td></tr></table>   |  | 設定値 | 説明 | ① | Append | バックアップ処理の度に同ファイルへ記録      | ② | Single | バックアップ処理の度に新ファイルへ記録  | ③ | Unused | ログ出力は行わない※3 |
|                  | 設定値                          | 説明  |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| ①                | Append                       | バックアップ処理の度に同ファイルへ記録   |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| ②                | Single                       | バックアップ処理の度に新ファイルへ記録   |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| ③                | Unused                       | ログ出力は行わない※3   |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| Precheck         | Auto                         | バックアップ開始のユーザー指示の有無を設定します。<br>バックアップ毎にメディアを交換する場合などで使用します。 <table><tr><th></th><th>設定値</th><th>説明</th></tr><tr><td>①</td><td>Auto</td><td>自動的にバックアップを開始</td></tr><tr><td>②</td><td>Step</td><td>指示があるまでバックアップを待機</td></tr></table>   |  | 設定値 | 説明 | ① | Auto   | 自動的にバックアップを開始            | ② | Step   | 指示があるまでバックアップを待機   |   |        |             |
|                  | 設定値                          | 説明  |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| ①                | Auto                         | 自動的にバックアップを開始   |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| ②                | Step                         | 指示があるまでバックアップを待機  |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| Source_Path      | パス名                          | ・バックアップ対象のパス名を入力します。<br>入力例：<br>C:¥Documents and Settings¥owner1 ※6<br>・矛盾や違反がある場合は、バックアップは開始されません※4※5。   |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| Destination_Path | パス名                          | ・バックアップ保管のパス名を入力します。<br>入力例：<br>D:¥backup data¥owner1_bak ※6<br>・矛盾や違反がある場合は、バックアップは開始されません※4※5。  |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |
| Log_Path         | パス名と<br>ファイル名                | ・バックアップ処理の経過を記録するログファイルのパス名の入力、及びファイル名を定義します。必ずファイル名の末尾には拡張子『.log』を付加してください※2。<br>入力例：<br>D:¥backup log¥owner1_bak_list.log ※6<br>① 黒色の部分がパス名<br>② 青色の部分がログファイル名<br>③ 赤色の部分がログファイルの拡張子<br>・矛盾や違反がある場合は、バックアップは開始されません※4※5。  |  |     |    |   |        |                          |   |        |  |   |        |             |

※ 1 設定項目の記述は順不同不可。また、いずれも設定項目は必須

※ 2 ログ保管のファイルの拡張子は小文字のみ識別されます。

(※3～※6 の補足の詳細は、次ページ以降参照)

※ 3 ログ出力を行わない場合は、“Log\_Path” 設定項目は設定値の有無に関わらず無視されます。

また、[Log\_Format] セクションの設定も無視されます。

※ 4 矛盾と判断されるケースを以下に示します。

① バックアップ対象のフォルダ内にバックアップ保管のフォルダが影響する場合

以下に影響があるケースとないケースの代表を示します。

「バックアップ対象」の基底フォルダ      D:\FOLDER1\DATA\ABC      ...A

×のケース（影響がある）

「バックアップ保管」の基底フォルダ1      D:\FOLDER1      ...B

「バックアップ保管」の基底フォルダ2      D:\FOLDER1\DATA      ...C

仮に A 内に“ABC”というフォルダが存在した場合 (D:\FOLDER1\DATA\ABC\ABC)、C のフォルダ構成は“D:\FOLDER1\DATA\ABC”となり A のフォルダ構成と競合してしまいます。

○のケース（影響はない）

「バックアップ保管」の基底フォルダ1      D:\FOLDER1\BAK1      ...D

「バックアップ保管」の基底フォルダ2      D:\BACKUP      ...E

A 内にどのようなフォルダが存在した場合でも、D や E のフォルダ構成へは競合しません。

② バックアップ保管のフォルダ内にバックアップ対象のフォルダが影響する場合

以下に影響があるケースとないケースの代表を示します。

「バックアップ保管」の基底フォルダ      D:\FOLDER1\DATA      ...A

×のケース（影響がある）

「バックアップ対象」の基底フォルダ1      D:\      ...B

「バックアップ対象」の基底フォルダ2      D:\FOLDER1      ...C

B と C は A を包含するため、バックアップ保管の内容が再びバックアップ対象として取り扱われてしまい不具合が生じます。

○のケース（影響はない）

「バックアップ対象」の基底フォルダ1      E:\      ...D

「バックアップ対象」の基底フォルダ2      D:\FOLDER1\ABC      ...E

D と E 内にどのようなフォルダが存在した場合でも、A のフォルダ構成へは競合しません。

③ バックアップ対象のフォルダ内にログファイルの作成場所を指定した場合

④ バックアップ保管のフォルダ内にログファイルの作成場所を指定した場合

※ 5 違反と判断されるケースを以下に示します。

① ドライブ名、フォルダ名、ファイル名、及び拡張子に OS の仕様により利用できない文字を用いた場合

（禁則文字は『/:\*?<>|”.’』の 9 種類。但し、ドットは文字列の前または間で使用可能）

② ファイル名の最大文字数を超える場合（半角全角共に 123 文字まで使用可能）

ファイルアロケーションテーブルや OS の仕様により文字数が 123 文字数以下に制限される場合があります。

③ パス名の最大文字数を超える場合（半角全角共に 123 文字まで使用可能）

ファイルアロケーションテーブルや OS の仕様により文字数が 123 文字数以下に制限される場合があります。

④ 1 行当たりの文字数（パスのサイズ）が 1014 バイトを超える場合

⑤ ドライブ名から始まらない記述（UNC 記述「\\host01」など。この問題の解決方法は※5 を参照）

⑥ ドライブのルート指定に¥サインを記述していない（D ドライブのルートは D:\と記述が必要）

⑦ ログ定義ではドライブ名、フォルダ名、ファイル名、及び拡張子の記述が、ソースとデスティネーション定義ではドライブ名、及びフォルダ名の記述が正しく行われていない場合、もしくは未定義の場合

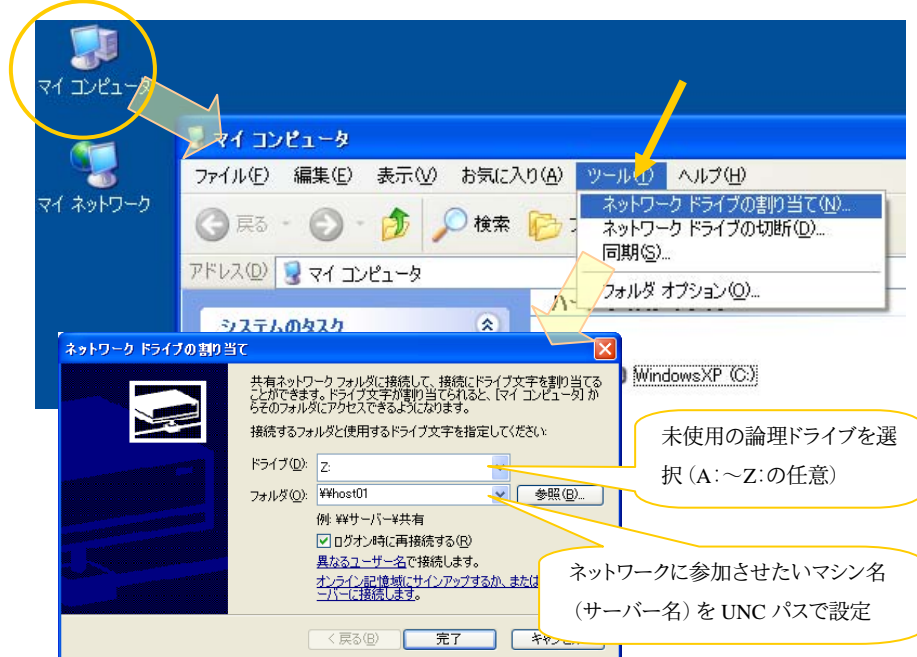


# ※ 6 ネットワークのリソース（ネットワークパス）を指定する方法として

UNC(Universal Naming Convention)には対応していません。ネットワーク経由でバックアップを行いたい場合は、空いている論理ドライブ名にネットワークパスの割り当てを行い、それを使用する様に設定してください。

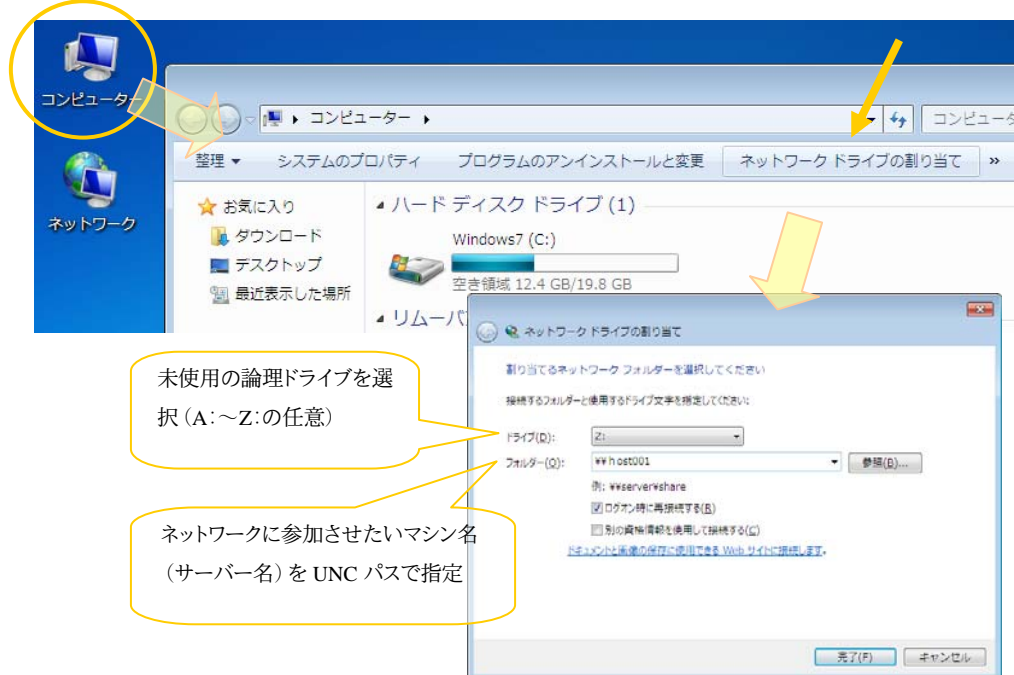
## ● Windows XP の場合

ネットワークパスの割り当て方法は、「エクスプローラ」もしくは「マイコンピュータ」を開き [ツール(T)]-[ネットワークドライブの割り当て(N)]より行います。



## ● Windows 7 の場合

ネットワークパスの割り当て方法は、「エクスプローラ」もしくは「マイコンピュータ」を開き [ネットワークドライブの割り当て]より行います。



| 設定項目 ※1     | 既定値       | 説明   |
|-------------|-----------|--|
| *Extensions | *(アスタリスク) | <p>・<b>バックアップ対象</b>の拡張子を全称指定、正論理指定、もしくは負論理指定のいずれかの論理で入力します。</p> <p>入力例 1 (全称指定) :<br/>*(アスタリスク)<br/>拡張子に関係なく、全てのファイルをバックアップ対象とする記述方法です。</p> <p>入力例 2 (正論理指定) :<br/>doc, txt, jpg<br/>指定した拡張子のファイルのみバックアップ対象とする記述方法です。<br/>指定していないファイルはバックアップされません。</p> <p>入力例 3 (負論理指定) :<br/>^exe, ^com, ^html, ^js<br/>指定した拡張子のファイル以外をバックアップ対象とする記述方法です。<br/>指定したファイルはバックアップされません。<br/>負論理の記述は、拡張子の前に^ (ハット) 記号を付加します。</p> <p>・拡張子の指定可能な上限数は 16 です。但し、全称指定時はアスタリスクのみ指定可能なため、上限数は 1 となります。</p> <p>・全称指定、正論理指定、もしくは負論理指定を同時に指定することはできません。いずれかの論理でのみ入力してください。</p> |

※1 設定項目の記述は順不同不可。また、いずれも設定項目は必須

※2 \*表記の設定項目は、フォームバージョン 1.1.3 で新設された設定項目

## 5. ファイルやドライブのアクセス権

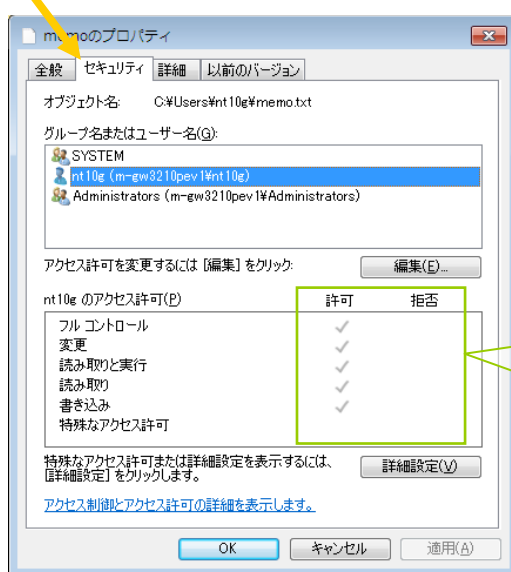
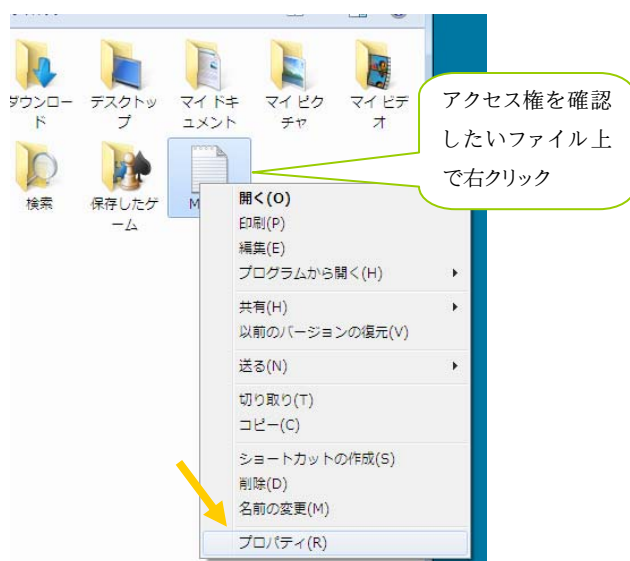
NTFS などのアクセス権を持つディスクでは、バックアップ使用者のアクセス権が不足することにより、ファイルやフォルダの作成や削除といった作業に失敗する可能性があります。この場合、バックアップ使用者のアクセス権限を昇格させてください。

ファイル、フォルダ、及びドライブに対する現在のアクセス権の確認方法について Windows 7 Professional を例にとり次に示します。

確認の結果、アクセス権が不足している場合は、ドメイン管理下のリソースの場合はそれを管理しているサーバー管理者へ、ピアツーピア管理下のリソースの場合はそれを管理しているユーザーへ、スタンドアロンのリソースの場合は Administrator 権限を持つユーザーへ問い合わせいただき、アクセス権の昇格が必要となります。

アクセス権の昇格やユーザーアカウント同士の優先関係等、詳細につきましては、割愛させていただきます。

### ● ファイルのアクセス権の確認方法



エクスプローラを開きファイルアイコンを右クリックするとポップアップメニューが表示され、最下段にある[プロパティ(R)]をクリックします。そして、[セキュリティ]タブをクリックするとそのファイルに対するアクセス権が表示されます。

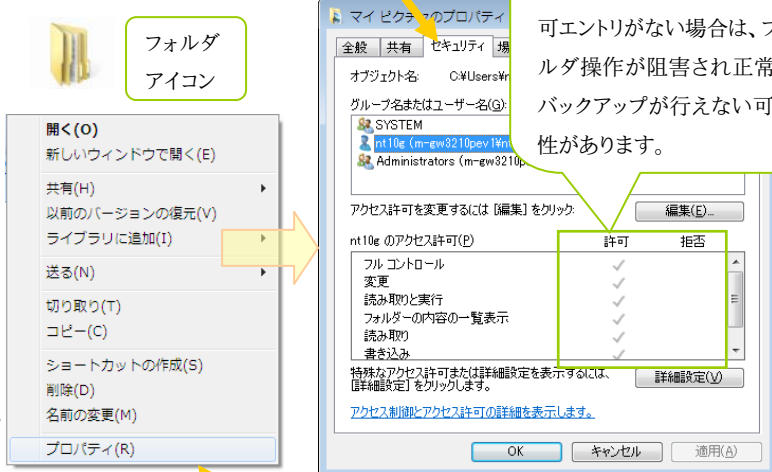
但し、FAT16/32 ではファイルに対するアクセス権は装備されていません。

拒否エントリがある場合や許可エントリがない場合は、ファイル操作が阻害され正常にバックアップが行えない可能性があります。

## ● フォルダのアクセス権の確認方法

フォルダアイコンを右クリックし、ポップアップメニューの最下段にある[プロパティ(R)]をクリックします。そして、[セキュリティ]タブをクリックするとそのフォルダに対するアクセス権が表示されます。

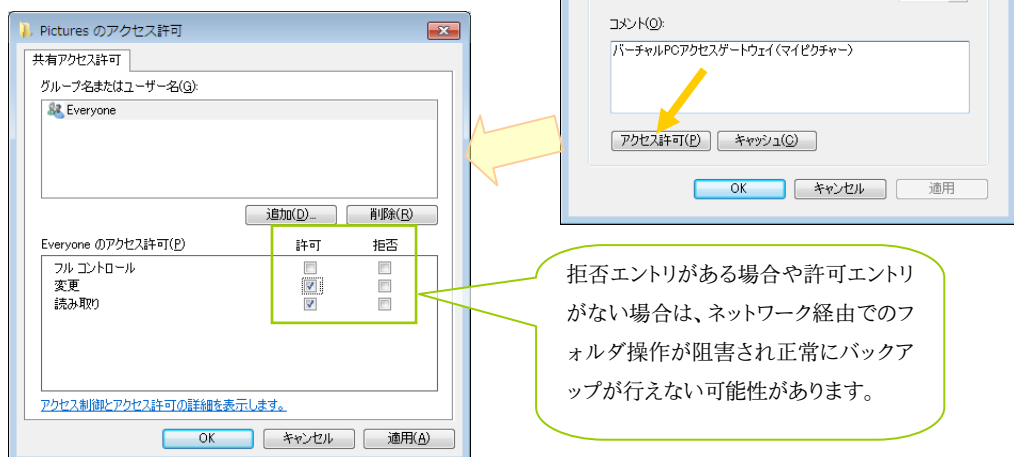
但し、FAT16/32 ではフォルダに対するアクセス権は装備されていません。



ネットワーク経由の場合も上述と同じくフォルダアイコンを右クリックし、ポップアップメニューの最下段にある[プロパティ(R)]をクリックします。そして、現れたメニューにある[共有(D)]のボタンをクリックします。すると、

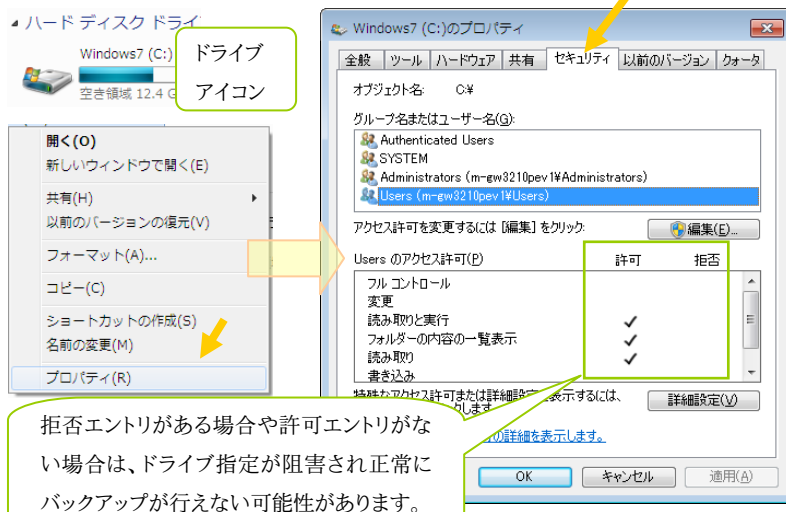
「詳細な共有」ウィンドウが開かれ、ここで[アクセス許可(P)]のボタンをクリックします。これで、ネットワーク経由でのアクセス権が表示されます。

FAT16/32 の場合でもアクセス権が有効になります。その理由として、フォルダの共有はフォルダ名ではなく共有名というエイリアスを利用することから、ドライブの共有化の際と手順が同一となります。すなわち、フォルダの共有についてもドライブの共有と同様、アクセス権が有効であると言えるからです。

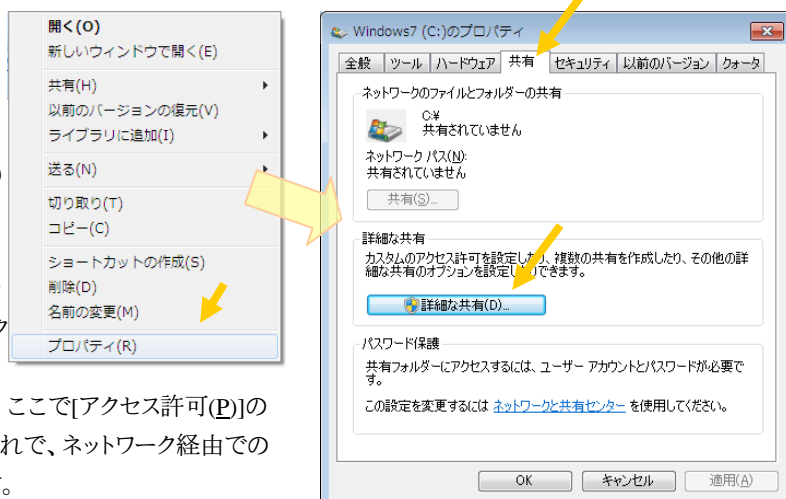


## ● ドライブのアクセス権の確認方法

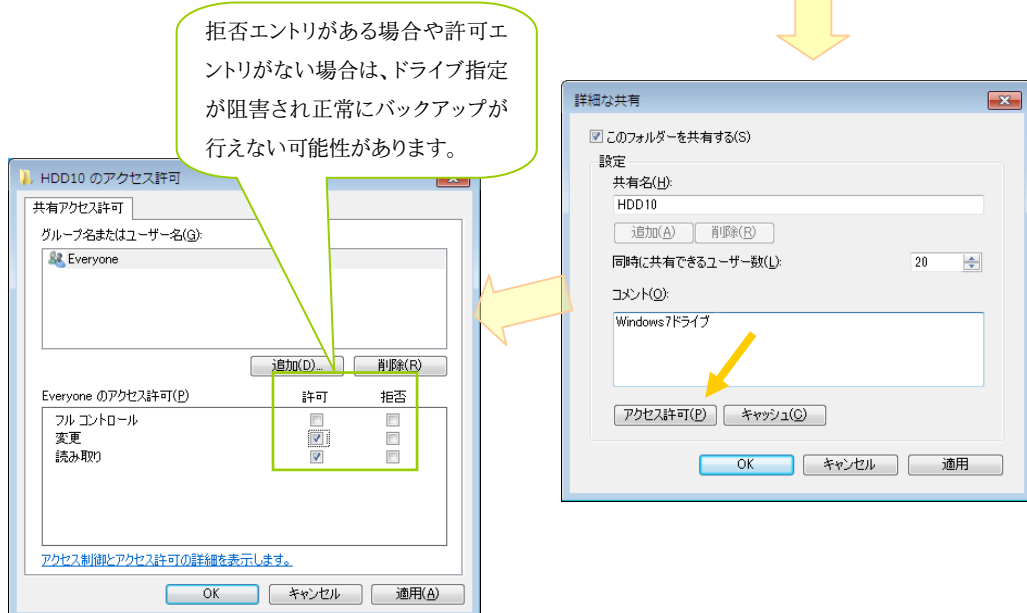
ドライブアイコンを右クリックし、ポップアップメニューの最下段にある[プロパティ(R)]をクリックします。そして、[セキュリティ]タブをクリックするとそのドライブに対するアクセス権が表示されます。



ネットワーク経由の場合も上述と同じくドライブアイコンを右クリックし、ポップアップメニューの最下段にある[プロパティ(R)]をクリックします。そして、現れたメニューにある[共有(D)]のボタンをクリックします。すると、「詳細な共有」ウィンドウが開かれ、ここで[アクセス許可(P)]のボタンをクリックします。これで、ネットワーク経由でのアクセス権が表示されます。



FAT16/32 の場合でもアクセス権が有効になります。



## 6. その他注意事項

バッチ処理の登録可能数は 16 エントリまでとなっています。複数のバックアップをエントリする方法につきましては、別紙『**セットアップ手順(PDF)**』をご覧ください。

バックアップ保管に指定されたフォルダは、動作原理の節で説明した様な処理が行われるため、**既に何らかのデータがあった場合でも強制的にバックアップ対象の内容に置き換わります**。これは、既にデータが存在するフォルダをバックアップ保管として指定した場合、バックアップ保管として指定されたフォルダに元々存在しているデータはすべて消滅することを意味します。ローカルに存在する C:\windows などの重要なフォルダをバックアップ保管として指定した場合は、強制的にバックアップは行われませんが、**ローカル以外の windows フォルダやアプリケーションがインストールされているフォルダを指定した場合などでは、それを検出する手段はありません**。あくまで**使用者の的確な判断の下バックアップ保管のフォルダを指定してください**。

ログ保管に指定されたログファイル名は、既に存在する**他のログファイル名と同名にすると無条件に上書きされ元の内容が失われる可能性があります**。ログ保管で指定されるファイル名は、あらかじめ重複がないことを確認してください。

## 7. 免責事項

本ソフトウェアに関して掲載されている情報の利用や本ソフトウェアの使用により生じる、直接的または間接的な損失、損害等について、いかなる場合においても作者は一切の責任を負わないものとします。いずれも、利用者の自己責任において本ソフトウェアを使用するものとします。

本ソフトウェアを実行、設定する際は操作手順をよく読んで理解された上でお願いします。

なお、本ソフトウェアを実行された場合は、これらの事項に同意されたものとみなします。

## 8. 謝意

今回のリリースでは、新たな機能拡張は行わず小さな修正のみ実施しています。バッチ処理の完全サイレンスモードやレジューム機能の特定の状況において、問題となる現象を修正しています。

## 9. お問い合わせ先

質問や感想、バグ報告などが御座いましたら、メールにて対応させていただきます。なにぶん、社会人の私が趣味の範囲で作成しているため、返信が遅くなったり対応に混乱をきたしたりする可能性が御座いますが、その点ご了承の上でメールをいただければと思います。また、ホームページでは最新情報を提供しています。

### お問い合わせ先

2014年11月15日現在

メールアドレス: [sinbackup-info@jttk.zaq.ne.jp](mailto:sinbackup-info@jttk.zaq.ne.jp)

ホームページ: <http://www.jttk.zaq.ne.jp/hiapplica/sinbackup/>

- EoF -